



TITLE:

編輯室だより

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編輯室だより. 天界 1941, 21(244): 328-328

ISSUE DATE:

1941-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168259>

RIGHT:

### 東亞天文協會大阪支部規約

第1條 本支部ハ東亞天文協會大阪支部ト言ヒ本部ノ主旨ニ準ジ其ノ事業ヲ助ケ以ツテ本部事業ノ強化ヲ計ルノガ目的デアル。

第2條 本支部ハ次ノ事業ヲ行フ

例 會  
講 演 會  
見 學 會 其 他

第3條 本支部ニ會長指名ノ役員ヲ置ク

支 部 長 壹 名  
幹 事 若 干 名

第4條 本支部ノ事業及組織ハ全テ會長ノ承認ヲ要スル

第5條 本支部規約ハ會長及本支部役員ノ決議ニヨリ變更スル事ガ出來ル

以 上

### 編輯室だより

ペティト博士はキルソン山で精密な熱電對を大反射鏡に仕掛けて天體の溫度を測定した人です。體格の偉大な、マルで我が國の双葉山みたいな感じのする人ですが、この人が針の先ほどの微細な器械を扱つてゐる圖を想像しながら“月世界の溫度”を読んで下さい。▲Physical Review といふ雑誌は米國物理學會の機關誌で、純粹な天文家にはトカク見逃され易い雑誌ですが、近年此の中に天文學の論文が頻繁に現はれ、中々油斷のならぬことがあります。本號に一寸挿入した文にも此の片鱗がうかがはれませう▲編輯部の一人は七月末以來、研究のため、北海道と樺太とへ旅行中で、其のために、校正其の他に一寸手が不足し、テンテコ舞ひですが、ともかく月末までには校了となりさうです。いよいよ日蝕となり、又、火星や木星もやつて來て、學界も緊迫して來ました。彗星も日没後の西天と南天とに一つづつ見えて、空を賑はしてゐますが、どうしたことか、春以來の惡天氣が尙續いて、充分な觀測が行はれにくく、齒がゆい思ひです。▲世界戰亂の折から、案外、歐洲方面からの通信が届きます。獨ソ戰の始まる前までは獨國からの通信は圓滑でしたが、只今は杜絶へました。しかし、コペンハーゲンあたりからの電報も回報もマヅ無難にやつて來ます。(多少遅延しますが)どこを、どう通つて來るのか知りませんが、不思議なことです。▲第299頁の訂正は恐縮々々。